

[マテリアルな側面とステークホルダーへの影響範囲](#)

[ガイドライン対照表](#)

[「準拠」に関するGRI内容索引](#)

[環境報告ガイドライン（2012年版）対照表](#)

[CSR委員会・社外委員からのコメント](#)

[第三者意見報告書](#)

[総括・社外意見を受けて](#)

[用語集](#)

[編集方針](#)

マテリアルな側面とステークホルダーへの影響範囲

特定したマテリアルな側面	組織内・組織外の主な影響範囲
経済	
経済的パフォーマンス	積水ハウスグループ、お客様、従業員、株主・投資家、取引先
調達慣行	積水ハウスグループ、従業員、株主・投資家、取引先、地域社会
環境	
原材料	積水ハウスグループ、従業員、株主・投資家、取引先、地域社会
エネルギー	積水ハウスグループ、従業員、株主・投資家、取引先
水	積水ハウスグループ、従業員、株主・投資家、取引先、地域社会
生物多様性	積水ハウスグループ、お客様、従業員、取引先、地域社会
大気への排出	積水ハウスグループ、お客様、従業員、株主・投資家、取引先、地域社会
排水および廃棄物	積水ハウスグループ、従業員、取引先、地域社会
製品およびサービス	積水ハウスグループ、お客様、従業員、株主・投資家、消費者、取引先、地域社会
コンプライアンス	積水ハウスグループ、お客様、従業員、株主・投資家、消費者、取引先、地域社会
輸送・移動	積水ハウスグループ、従業員、株主・投資家、消費者、取引先、地域社会
環境全般	積水ハウスグループ、お客様、従業員、株主・投資家、消費者、取引先、地域社会
サプライヤーの環境評価	積水ハウスグループ、株主・投資家、取引先
環境に関する苦情処理制度	積水ハウスグループ、お客様、従業員、株主・投資家、消費者、取引先、地域社会
社会	
労働慣行とディーセント・ワーク	
雇用	積水ハウスグループ、従業員、地域社会
労働安全衛生	積水ハウスグループ、従業員、取引先
研修および教育	積水ハウスグループ、従業員、取引先
多様性と機会均等	積水ハウスグループ、従業員、地域社会

人権	
投資	積水ハウスグループ、従業員、株主・投資家、取引先、地域社会
人権評価	積水ハウスグループ、従業員、取引先、地域社会
人権に関する苦情処理制度	積水ハウスグループ、従業員、取引先、地域社会
社会	
地域コミュニティ	積水ハウスグループ、お客様、地域社会
腐敗防止	積水ハウスグループ、従業員、株主・投資家、取引先
反競争的行為	積水ハウスグループ、従業員、株主・投資家、取引先
コンプライアンス	積水ハウスグループ、お客様、従業員、株主・投資家、消費者、取引先、地域社会
製品責任	
顧客の安全衛生	積水ハウスグループ、お客様、消費者、地域社会
製品およびサービスのラベリング	積水ハウスグループ、お客様、消費者、取引先
マーケティング・コミュニケーション	積水ハウスグループ、お客様、消費者
顧客プライバシー	積水ハウスグループ、お客様、従業員、消費者、取引先
コンプライアンス	積水ハウスグループ、お客様、従業員、株主・投資家、消費者、取引先、地域社会

「準拠」に関するGRI内容索引

本報告書は、GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」(G4)の「中核(Core)」準拠を目指しています。
「サステナビリティレポート2015」冊子版の内容索引ページ(P.77,78)をより詳細にして下表にまとめています。

一般標準開示項目

戦略および分析



項目		掲載ページ／関連情報	外部保証
G4-1	組織の持続可能性の関連性と戦略に関する組織の最高意思決定者の声明	トップコミットメント	

組織のプロフィール

項目		掲載ページ／関連情報	外部保証
G4-3	組織の名称	積水ハウスグループの概要	
G4-4	主要なブランド、製品およびサービス	積水ハウスグループの概要	
G4-5	組織の本社の所在地	積水ハウスグループの概要	
G4-6	組織が事業展開している国の数、および特に関連のある国の名称	CSV戦略⑥海外への事業展開 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略⑥海外への事業展開 これまでの取り組み・評価	
G4-7	組織の所有形態や法人格の形態	積水ハウスグループの概要	
G4-8	参入市場	積水ハウスグループの概要 CSV戦略⑥海外への事業展開 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略⑥海外への事業展開 これまでの取り組み・評価	
G4-9	組織の規模	積水ハウスグループの概要 有価証券報告書等 🔗 決算短信 🔗	
G4-10	雇用の内訳	積水ハウスグループの概要	
G4-11	団体交渉協定の対象となる全従業員の比率	該当なし	

G4-12	組織のサプライチェーン	ステークホルダーコミュニケーション指針 サプライチェーン・マネジメント	
G4-13	報告期間中に発生した重大な変更	積水ハウスグループの概要 決算短信 	
G4-14	予防的アプローチや予防原則への取り組み	「化学物質ガイドライン」の運用	
G4-15	経済、環境、社会憲章、原則、その他のイニシアティブへの署名または支持	「エコ・ファーストの約束」と進捗	
G4-16	団体や国内外の提言機関における会員資格	住環境の質の向上を目指した団体活動及び提言活動	

特定されたマテリアルな側面とバウンダリー

項目		掲載ページ／関連情報	外部保証
G4-17	組織の連結対象であるすべての事業体および報告対象からの除外	編集方針 有価証券報告書等  決算短信 	
G4-18	報告書の内容および側面のバウンダリーの確定プロセス、「報告内容に関する原則」の適用	編集方針 マテリアルな側面特定のプロセス	
G4-19	特定したすべてのマテリアルな側面	マテリアルな側面特定のプロセス マテリアルな側面とステークホルダーへの影響範囲	
G4-20	各マテリアルな側面について、組織内の側面のバウンダリー	マテリアルな側面とステークホルダーへの影響範囲	
G4-21	各マテリアルな側面について、組織外の側面のバウンダリー	マテリアルな側面とステークホルダーへの影響範囲	
G4-22	過去の報告書で提供した情報を修正再記述する場合には、その影響および理由	該当なし	
G4-23	スコープおよび側面のバウンダリーについて、過去の報告期間からの重要な変更	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)	

ステークホルダー・エンゲージメント

項目		掲載ページ／関連情報	外部保証
G4-24	ステークホルダー・グループの一覧	ステークホルダーコミュニケーション指針	
G4-25	ステークホルダーの特定および選定基準	ステークホルダーコミュニケーション指針	
G4-26	ステークホルダー・エンゲージメントへの組織のアプローチ方法	株主様・投資家様とのコミュニケーション ステークホルダーコミュニケーション指針 マテリアルな側面特定のプロセス	
G4-27	ステークホルダー・エンゲージメントにより提起された主なテーマおよび対応、提起したステークホルダー	ステークホルダーコミュニケーション指針 CSR委員会・社外委員からのコメント 第三者意見報告書 総括・社外意見を受けて	

報告書のプロフィール

項目		掲載ページ／関連情報	外部保証
G4-28	提供情報の報告期間(会計年度、暦年など)	編集方針	
G4-29	最新の発行済報告書の日付(該当する場合)	編集方針	
G4-30	報告サイクル(年次、隔年など)	編集方針	
G4-31	報告書またはその内容に関する質問の窓口	編集方針	
G4-32	選択した「準拠」のオプション、GRI内容索引、外部保証を受けている場合、参照情報	独立保証報告書  「準拠」に関するGRI内容索引	
G4-33	報告書の外部保証に関する組織の方針および現在の実務慣行	独立保証報告書 	

ガバナンス

項目		掲載ページ／関連情報	外部保証
G4-34	組織のガバナンス構造、経済、環境、社会影響に関する意思決定の責任を負う委員会があれば特定	CSR委員会とCSR推進体制 コーポレートガバナンス・内部統制システム	

倫理と誠実性

項目		掲載ページ／関連情報	外部保証
G4-56	組織の価値、理念および行動基準・規範	企業理念・CSR方針 「4つの価値」と「13の指針」に基づくCSRマネジメント 「4つの価値」と「13の指針」とISO26000の関係	

特定標準開示項目

経済

項目		掲載ページ／関連情報	外部保証
DMA	側面が重要である理由、マネジメント方式およびマネジメント手法の評価	トップコミットメント 株主様・投資家様とのコミュニケーション 企業理念・CSR方針 「4つの価値」と「13の指針」に基づくCSRマネジメント 「4つの価値」と「13の指針」とISO26000の関係 CSR委員会とCSR推進体制 コーポレートガバナンス・内部統制システム	

経済パフォーマンス			
G4-EC1	創出、分配した直接的経済価値	11年間の主要財務データと主な取り組み 住宅産業をリードする積水ハウスグループ 積水ハウスグループの価値創造 2014年度中期経営計画とCSV戦略 株主様・投資家様とのコミュニケーション 社会性目標と実績 従業員、取引先様のために 従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」 SELP(セルフ)製品の販売協力、ノベルティー採用 障害者週間協賛行事への参画 各地で「学びの場」を提供し、展開する教育貢献活動 有価証券報告書等 ☞ 決算短信 ☞	
G4-EC2	気候変動によって組織の活動が受ける財務上の影響、その他のリスクと機会	環境会計 CSV戦略①住宅のネット・ゼロ・エネルギー化 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略①住宅のネット・ゼロ・エネルギー化 これまでの取り組み・評価 省エネ・創エネリフォームに向けた取り組み グループ力で推進する地球温暖化防止	
調達慣行			
固有のDMA	サプライチェーンでマイナスの影響を発生させる原因となっている組織の調達慣行および調整するために取った措置	ステークホルダーコミュニケーション指針 CSV戦略②生物多様性の保全 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント	
G4-EC9	重要事業拠点における地元サプライヤーへの支出の比率	お取引先との相互コミュニケーション	

環境

項目		掲載ページ／関連情報	外部保証
DMA	側面が重要である理由、マネジメント方式およびマネジメント手法の評価	環境マネジメントの推進・方針 企業理念・CSR方針 「4つの価値」と「13の指針」に基づくCSRマネジメント 「4つの価値」と「13の指針」とISO26000の関係 CSR委員会とCSR推進体制 コーポレートガバナンス・内部統制システム 環境目標と実績 CO₂排出削減 環境目標と実績 生態系保全 環境目標と実績 資源循環 環境目標と実績 その他 環境に関する主な取り組みの積み重ね 「エコ・ファーストの約束」と進捗	
原材料			
G4-EN1	使用原材料の重量または量	積水ハウスグループの価値創造 CSV戦略②生物多様性の保全 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略②生物多様性の保全 これまでの取り組み・評価 マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)	

エネルギー			
	固有のDMA 組織が国、地域、業界が定めるエネルギー関連の規制や方針に従っているかどうか、およびその例	CSV戦略①住宅のネット・ゼロ・エネルギー化 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略①住宅のネット・ゼロ・エネルギー化 これまでの取り組み・評価 省エネ・創エネリフォームに向けた取り組み グループカで推進する地球温暖化防止	
G4-EN3	組織内のエネルギー消費量	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)	独立保証報告書 
G4-EN5	エネルギー原単位	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)	
水			
G4-EN8	水源別の総取水量	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)	
生物多様性			
	固有のDMA 生物多様性マネジメントに関する方針の達成に向けた組織の戦略	CSV戦略②生物多様性の保全 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略②生物多様性の保全 これまでの取り組み・評価	
G4-EN11	保護地域の内部や隣接地域または保護地域外の生物多様性価値の高い地域に所有、賃借、管理している事業サイト	該当なし	

大気への排出			
固有のDMA	組織が国、地域、業界が定める何らかの排出物関連規制や方針の適用を受けるか否か、およびその例	CO2排出削減事業「グリーンファースト倶楽部」 マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握) 環境目標と実績 CO2排出削減 環境目標と実績 生態系保全 環境目標と実績 資源循環 環境目標と実績 その他 環境に関する主な取り組みの積み重ね 「エコ・ファーストの約束」と進捗 「エコ・ファースト推進協議会」の活動への参加	
G4-EN15	直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1)	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)	独立保証報告書 
G4-EN16	間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2)	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)	独立保証報告書 
G4-EN17	その他の間接的な温室効果ガス(GHG)排出(スコープ3)	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)	独立保証報告書 
G4-EN18	温室効果ガス(GHG)排出原単位	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握) 環境目標と実績 CO2排出削減 環境目標と実績 生態系保全 環境目標と実績 資源循環 環境目標と実績 その他 環境に関する主な取り組みの積み重ね	

G4-EN19	温室効果ガス(GHG)排出量の削減量	CSV戦略①住宅のネット・ゼロ・エネルギー化 これまでの取り組み・評価 グループカで推進する地球温暖化防止 マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握) 環境目標と実績 CO₂排出削減 環境目標と実績 生態系保全 環境に関する主な取り組みの積み重ね	
排水および廃棄物			
G4-EN22	水質および排出先ごとの総排水量	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握) サイトレポート	
G4-EN23	種類別および処分方法別の廃棄物の総重量	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)	独立保証報告書 
G4-EN24	重大な漏出の総件数および漏出量	該当なし	
G4-EN25	バーゼル条約2付属文書 I、II、III、VIIIに定める有害廃棄物の輸送、輸入、輸出、処理重量、および国際輸送した廃棄物の比率	該当なし	
製品およびサービス			
G4-EN27	製品およびサービスによる環境影響緩和の程度	CSV戦略①住宅のネット・ゼロ・エネルギー化 これまでの取り組み・評価 グループカで推進する地球温暖化防止 マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)	
コンプライアンス			
G4-EN29	環境法規制の違反に関する高額罰金の額、罰金以外の制裁措置の件数	該当なし	

輸送・移動			
G4-EN30	製品の輸送、業務に使用するその他の物品や原材料の輸送、従業員の移動から生じる著しい環境影響	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握) 環境目標と実績 CO2排出削減 環境目標と実績 生態系保全 環境目標と実績 資源循環 環境目標と実績 その他 環境に関する主な取り組みの積み重ね	
環境全般			
G4-EN31	環境保護目的の総支出と総投資(種類別)	環境会計	
サプライヤーの環境評価			
固有のDMA	環境クライテリアを用いて新規サプライヤーを選別するシステム、特定されたマイナスの影響および対応する措置	CSV戦略②生物多様性の保全 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略②生物多様性の保全 これまでの取り組み・評価	
G4-EN32	環境クライテリアにより選定した新規サプライヤーの比率	お取引先との相互コミュニケーション	
環境に関する苦情処理制度			
固有のDMA	環境影響に関する苦情処理制度の有用性や利用性、是正プロセスおよび関連する研修の種類	環境に関する法令の遵守状況	
G4-EN34	環境影響に関する苦情で、正式な苦情処理制度を通じて申立、対応、解決を行ったものの件数	環境に関する法令の遵守状況	

項目	掲載ページ／関連情報	外部保証
労働慣行とディーセント・ワーク		
DMA	側面が重要である理由、マネジメント方式およびマネジメント手法の評価	<p>CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント</p> <p>CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 これまでの取り組み・評価</p> <p>企業理念・CSR方針</p> <p>「4つの価値」と「13の指針」に基づく CSRマネジメント</p> <p>「4つの価値」と「13の指針」と ISO26000の関係</p> <p>CSR委員会とCSR推進体制</p> <p>コーポレートガバナンス・内部統制システム</p> <p>社会性目標と実績</p> <p>CSR方針と体制</p> <p>社会性目標と実績</p> <p>お客様のために</p> <p>「弁当の日」応援プロジェクトに参画</p> <p>「住空間ecoデザインコンペティション」</p> <p>「建築新人戦」を開催</p> <p>環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施</p> <p>社会性目標と実績</p> <p>従業員、取引先様のために</p> <p>従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」</p> <p>SELP(セルプ)製品の販売協力、ノベルティー採用</p> <p>障害者週間協賛行事への参画</p> <p>各地で「学びの場」を提供し、展開する教育貢献活動</p>

雇用			
固有DMA	組織のサプライチェーン内で行われている労働が、しかるべき制度的、法的枠組みに沿っていない状況および対応措置	該当事象なし	
G4-LA3	出産・育児休暇後の復職率と定着率(男女別)	CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 これまでの取り組み・評価	
労働安全衛生			
固有のDMA	重篤な疾病に関して、労働者と家族、コミュニティのメンバー支援のために設けているプログラム	看護や介護、退職従業員へ向けた各種支援制度	
G4-LA6	傷害の種類と、傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤の比率および業務上の死亡者数(地域別、男女別)	労働災害発生状況	
研修および教育			
G4-LA9	従業員一人あたりの年間平均研修時間(男女別、従業員区分別)	人材育成の考え方	
多様性と機会均等			
G4-LA12	ガバナンス組織の構成と従業員区分別の内訳(性別、年齢、マイノリティーグループその他の多様性別)	コーポレートガバナンス・内部統制システム	

人権			
DMA	側面が重要である理由、マネジメント方式およびマネジメント手法の評価	CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 これまでの取り組み・評価 企業理念・CSR方針 「4つの価値」と「13の指針」に基づく CSRマネジメント 「4つの価値」と「13の指針」と ISO26000の関係 CSR委員会とCSR推進体制 コーポレートガバナンス・内部統制システム 社会性目標と実績 従業員、取引先様のために 従業員と会社の共同寄付制度「積水 ハウスマッチングプログラム」 SELP(セルフ)製品の販売協力、ノベルティー採用 障害者週間協賛行事への参画 各地で「学びの場」を提供し、展開する教育貢献活動	
投資			
固有のDMA	方針・手順を外部当事者に広げるための戦略、契約上の人権クライテリア・人権条項の定め	「企業倫理要項」の遵守 ヒューマンリレーション推進体制 木材調達ガイドラインの運用と改定	
G4-HR2	業務関連の人権側面についての方針、手順を内容とする従業員研修を行った総時間(研修を受けた従業員の比率を含む)	ヒューマンリレーション研修	
人権評価			
G4-HR9	人権レビューや影響評価の対象とした業務の総数とその比率	ヒューマンリレーション研修	

人権に関する苦情処理制度			
固有のDMA	人権影響に関する苦情処理制度の利用可能性、アクセス可能性、救済プロセス	サプライチェーン・マネジメント コンプライアンス推進とリスクマネジメント体制 コンプライアンスの考え方 コンプライアンス推進活動 内部通報システムと公益通報者の保護	
G4-HR12	人権影響に関する苦情で、正式な苦情処理制度により申立、対応、解決を図ったものの件数	ヒューマンリレーション推進体制	
社会			
DMA	側面が重要である理由、マネジメント方式およびマネジメント手法の評価	企業理念・CSR方針 「4つの価値」と「13の指針」に基づくCSRマネジメント 「4つの価値」と「13の指針」とISO26000の関係 CSR委員会とCSR推進体制 コーポレートガバナンス・内部統制システム 社会性目標と実績 CSR方針と体制 社会性目標と実績 お客様のために 「弁当の日」応援プロジェクトに参画 「住空間ecoデザインコンペティション」 「建築新人戦」を開催 環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施 社会性目標と実績 従業員、取引先様のために 従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」 SELP(セルフ)製品の販売協力、ノベルティー採用 障害者週間協賛行事への参画 各地で「学びの場」を提供し、展開する教育貢献活動	

地域コミュニティ			
固有のDMA	地域コミュニティの集团的権利に関する参考文献・声明、地域コミュニティに対するエンゲージメント(男女別)、地域コミュニティへの影響に対処するために労働安全衛生委員会等に付与している権限・実績	「防災未来工場化計画」の取り組み	
G4-S02	地域コミュニティに著しいマイナスの影響(現実のもの、潜在的なもの)を及ぼす事業	—	
腐敗防止			
固有のDMA	腐敗リスクの評価手順およびクライテリア	コンプライアンス推進とリスクマネジメント体制 コンプライアンスの考え方 コンプライアンス推進活動 内部通報システムと公益通報者の保護	
G4-S04	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	お取引先との相互コミュニケーション コンプライアンス推進とリスクマネジメント体制 コンプライアンスの考え方 コンプライアンス推進活動 内部通報システムと公益通報者の保護	
反競争的行為			
G4-S07	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により法的措置を受けた事例の総件数およびその結果	コンプライアンス推進とリスクマネジメント体制 コンプライアンスの考え方 コンプライアンス推進活動 内部通報システムと公益通報者の保護	
コンプライアンス			
G4-S08	法規制への違反に対する相当額以上の罰金額および罰金以外の制裁措置の件数	コンプライアンス推進とリスクマネジメント体制 コンプライアンスの考え方 コンプライアンス推進活動 内部通報システムと公益通報者の保護	

製品責任			
DMA	側面が重要である理由、マネジメント方式およびマネジメント手法の評価	CSV戦略③生産・施工品質の維持・向上 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略③生産・施工品質の維持・向上 これまでの取り組み・評価 企業理念・CSR方針 「4つの価値」と「13の指針」に基づくCSRマネジメント 「4つの価値」と「13の指針」とISO26000の関係 CSR委員会とCSR推進体制 コーポレートガバナンス・内部統制システム 社会性目標と実績 CSR方針と体制 社会性目標と実績 お客様のために 「弁当の日」応援プロジェクトに参画 「住空間ecoデザインコンペティション」 「建築新人戦」を開催 環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施	
顧客の安全衛生			
固有のDMA	製品・サービスの安全衛生に関する改善のための影響評価(ライフサイクル別)	お客様アンケートの分析とフィードバック	
G4-PR2	製品やサービスのライフサイクルにおいて発生した、安全衛生に関する規制および自主的規範の違反事例の総件数(結果の種類別)	お客様アンケートの分析とフィードバック	
製品およびサービスのラベリング			
固有のDMA	顧客満足度の評価、維持のために組織全体で実施している慣行	お客様アンケートの分析とフィードバック	
G4-PR5	顧客満足度調査の結果	お客様アンケートの分析とフィードバック	
マーケティング・コミュニケーション			
G4-PR7	マーケティング・コミュニケーション(広告、プロモーション、スポンサー活動を含む)に関する規制および自主的規範の違反事例の総件数(結果の種類別)	「企業倫理要項」の遵守	

顧客プライバシー			
G4-PR8	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して実証された不服申立の総件数	個人情報保護の取り組み	
コンプライアンス			
G4-PR9	製品およびサービスの提供、使用に関する法律や規制の違反に対する相当額以上の罰金金額	該当なし	

環境報告ガイドライン(2012年版)対照表

環境報告の基本的事項

項目・指標	該当項目
1.報告にあたっての基本的要件	
(1) 報告対象組織の範囲・対象期間	編集方針
	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)
(2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異	編集方針
(3) 報告方針	編集方針
(4) 公表媒体の方針等	編集方針
	報告書ダウンロード
	マルチサーチ
	独立保証報告書 
2.経営責任者の緒言	トップコミットメント
3.環境報告の概要	
(1) 環境配慮経営等の概要	積水ハウスグループの概要
	住宅産業をリードする積水ハウスグループ
(2) KPIの時系列一覧	環境目標と実績
	社会性目標と実績
	各CSV戦略ページに関連するKPIを記載しています。
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	環境目標と実績
4.マテリアルバランス	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)

環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況

項目・指標	該当項目
1.環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等	
(1)環境配慮の方針	ブランドビジョン「SLOW & SMART」
	サステナブルビジョン「環境価値」
	「エコ・ファーストの約束」と進捗
(2)重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	トップコミットメント
	経営理念
	ブランドビジョン「SLOW & SMART」
	2014年度中期経営計画とGSV戦略
	マテリアルな側面特定のプロセス
2.組織体制及びガバナンスの状況	
(1)環境配慮経営の組織体制等	環境マネジメントの推進・方針
	CSR推進体制
	ISO14001認証取得
(2)環境リスクマネジメント体制	リスクマネジメント
	リスクマネジメント(廃棄物管理)
	リスクマネジメント(解体処理)
	リスクマネジメント(土壌汚染)
(3)環境配慮経営の組織体制等	環境に関する法令の遵守状況
	マテリアルバランス(事業活動の負荷の把握)
3.ステークホルダーへの対応	
(1)ステークホルダーへの対応	ステークホルダーとともに創る未来
	マテリアルな側面特定のプロセス

(2) 環境に関する社会貢献活動等	各地で「学びの場」を提供し、展開する教育貢献活動
	環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施
	「企業の森」制度への参加をはじめとする森林保全活動
	従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」
	社会貢献活動社長表彰
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	CSV戦略②生物多様性の保全
	フェアウッド調達
	サプライチェーン・マネジメント
	お取引先との相互コミュニケーション
(2) グリーン購入・調達	CSV戦略②生物多様性の保全
	フェアウッド調達
	「グリーン購入」の推進
	環境に配慮した車両の導入とエコ安全ドライブの推進
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	CSV戦略①住宅のネット・ゼロ・エネルギー化
	「グリーンファースト ゼロ」を推進
	賃貸住宅「シャームゾン グリーンファースト」推進
	省エネ・創エネルギーフォームに向けた取り組み
	分譲マンションも「グリーンファースト」
	「5本の樹」計画
	緑豊かな賃貸住宅「シャームゾンガーデンズ」
	CSV戦略④住宅の長寿命化とアフターサポートの充実
(4) 環境関連の新技术・研究開発	研究・開発
	HEMSを活用した暮らしのサポート
	ウェアラブルセンサーを用いた実証試験を開始
	住宅内でのロボット技術の応用に関する共同研究・開発を開始
	日常生活の支援を可能とするネットワーク型BMIの技術開発に成功

(5)環境に配慮した輸送	輸送時のエネルギー消費
	ハブ化物流への取り組み
(6)環境に配慮した資源・不動産開発／投資等	CSV戦略⑥海外への事業展開
	スマートな技術を生かした、持続可能なまちづくり「スマートコモンシティ」
(7)環境に配慮した廃棄物処理／リサイクル	循環型の社会づくり
	広域認定制度を利用したゼロエミッション

事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況

項目・指標	該当項目
1.資源・エネルギーの投入状況	
(1)総エネルギー投入量及びその低減対策	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)
	生産時のCO₂排出削減の取り組み(生産時のエネルギー消費)
	生産時のCO₂排出削減の取り組み(木質バイオマス・ガス化発電システムの導入)
	輸送時のCO₂排出削減の取り組み(輸送時のエネルギー消費)
	輸送時のCO₂排出削減の取り組み(ハブ化物流への取り組み)
	事務所で取り組むCO₂排出削減(グループで取り組む省エネ・節電活動)
	事務所で取り組むCO₂排出削減(環境に配慮した車両の導入とエコ安全ドライブの推進)
(2)総物質投入量及びその低減対策	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)
	事務所における資源循環
(3)水資源投入量及びその低減対策	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)
	サイトレポート
2.資源等の循環的利用の状況(事業エリア内)	循環型の社会づくり
3.生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	
(1)総製品生産量又は総商品販売量等	積水ハウスグループの概要

(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	CSV戦略①住宅のネット・ゼロ・エネルギー化
	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)
	生産時のCO₂排出削減の取り組み(生産時のエネルギー消費)
	生産時のCO₂排出削減の取り組み(木質バイオマス・ガス化発電システムの導入)
	輸送時のCO₂排出削減の取り組み(輸送時のエネルギー消費)
	輸送時のCO₂排出削減の取り組み(ハブ化物流への取り組み)
	事務所で取り組むCO₂排出削減
(3) 総排水量及びその低減対策	サイトレポート
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	サイトレポート
	PRTR—工場で使用する化学物質の管理
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	PRTR—工場で使用する化学物質の管理
	「化学物質ガイドライン」の運用
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)
	循環型の社会づくり
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	有害化学物質漏えい対策方針
	土壌汚染に関するリスクへの対応
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	CSV戦略②生物多様性の保全
	フェアウッド調達
	「5本の樹」計画
	持続可能なまちを実現する「まちづくり憲章」
	「緑の都市賞」を受賞した「新・里山」・「希望の壁」

環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況

項目・指標	該当項目
1.環境配慮経営の経済的側面に関する状況	
(1) 事業者における経済的側面の状況	積水ハウスグループの概要
	11年間の主要財務データと主な取り組み
	積水ハウスグループの価値創造
	環境会計
(2) 社会における経済的側面の状況	従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」
	公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」
	チャリティー・ボランティア活動
	環境会計
2.環境配慮経営の社会的側面に関する状況	CSV戦略④住宅の長寿命化とアフターサポートの充実
	CSV戦略⑤ダイバーシティの推進
	CSRマネジメント
	社会性目標と実績
	2014年度 社外からの主な評価
	企業市民としての取り組み

その他の記載事項

項目・指標	該当項目
1.後発事象等	
(1) 後発事象	該当事項はありません
(2) 臨時的事象	該当事項はありません
2.環境情報の第三者審査等	独立保証報告書 

CSR委員会・社外委員からのコメント

CSRの重要方針の立案・推進と取り組みの検証を目的として、「CSR委員会」を3カ月ごとに年4回開催しています。同委員会では3人の社外委員をお招きし、「社外の目」から率直な意見をいただき議論を重ねています。2014年度の活動を踏まえ、各委員からのコメントをいただきました。

社会への目配り・心配り・気配りを大切に

もしもの災害時への対応として、積水ハウスではお客様の暮らしを守る防災計画づくりに力を入れています。ソーラーでエネルギーをつくり生活を維持するネット・ゼロ・エネルギー・ハウスや、地震で倒壊しない耐震技術など「住宅そのものがお客様の家族や財産を守る」ことはもとより、停電時にも使用可能な防災センター機能を持つ集会所など「コミュニティで住民と地域を守るお手伝い」や被災地に一番近い工場が自治体と連携して地域避難所の役割を担ったり、災害対応拠点として生活維持のため備蓄品を供給したりするなど「工場と従業員がお客様と地域を守る」ことに取り組もうとしています。

特に隣近所との関係が希薄になることで崩壊の危機にあるコミュニティを再生する取り組みは、住民や地方行政など多くの関係者の協力が必要ですが、住宅を通じて社会によい変化を生み出そうとする高い次元の目標に挑戦しています。

高品質な住宅の提供による自社事業の継続にとどまらず、住宅を通じて社会課題を解決することで持続可能な社会づくりに貢献していこうとする考え方がビジネスに定着している好例であり、社会への目配り・心配り・気配りができていることがよく分かります。「住宅が変われば社会は変わる。住宅が社会を変える」との取り組みを積水ハウスの強みにすることを期待します。



シャープ株式会社 元社長
辻 晴雄

CSR委員会でのコメントから

グローバルな展開を進めていく中で、グローバルなマーケティングをどのように考えていくか。大企業でも格差がつく時代である。何で差がつくかという「マーケティング力」だと思う。ぜひ、そこに注目をしてほしい。

サービタイゼーションと顧客価値

世界中の耐久消費財や耐久生産財のメーカーが共通の動きを示しています。耐久財の販売だけでなく、その商品の保守点検サービスや消耗品の販売に乗り出すという動きです。このような動きは、サービタイゼーションと呼ばれます。サービタイゼーションはメーカーの弱点を克服する手段です。耐久財の販売だけに依存していると収益の不安定化が避けられません。景気変動の動きをもろに受けてしまいます。市場の成熟化への対応も悩ましくなります。これに対してサービタイゼーションは、日銭商売であるために、収益の安定化を図ることができます。

顧客にとっても価値があります。顧客は物が欲しいから耐久財を買うわけではありません。それを使ってよりよい仕事をしたい、あるいはよりよく暮らしたいから買うのです。よりよい暮らしや仕事のためにはサービスが不可欠です。このようなサービスが提供されることによって顧客価値は高められます。積水ハウスも例外ではありません。サービタイゼーションによって顧客価値を高め、顧客満足を引き出すことができます。そのためには顧客が何に困っておられるかを考え、顧客の悩みを解決するために何ができるかを考える必要があります。



甲南大学 特別客員教授
加護野 忠男

CSR委員会でのコメントから

ダイバーシティについて、女性にもできるだけと仕事を任せるのではなく、男性ができなかった仕事、今までのプロジェクトでうまくいかなかったことを女性に任せると成功に結び付けてくれる場合もある。男性中心の会社が女性のプロジェクトチームをつくって、1億円のコストダウンを成功させた例もある。

真価を理解する研鑽の浸透とその発信を

最近、外国人の目線から日本の文化・風習や日本人の行動などに焦点を当て、「すごいね、日本(人)」と褒め上げるテレビ番組をよく見かけます。こうした番組では、我々日本人が自国の歴史や文化を意外に知らないことを教えられ、そうした知識と理解があつてこそ、初めてその真価に気が付き、これが自信となることが分かります。

積水ハウスが、環境・省エネ・創エネなど住まいのあらゆる面で時代の最先端をいく高品質の商品と優良なサービスを社会に提供していることは広く知られています。今、このアドバンテージを生かし、さらに発展させ、着実に実績を上げることが求められます。そのためには、まず社員一人ひとりが積水ハウスの商品とサービスが優良であることを徹底的に研鑽し、これを熱意をもって自らの言葉でお客様に発信することができるかどうか問われます。

創業から55年、絶ゆまぬ技術革新と幾多の先人の努力によって、今の積水ハウスがあることを誇りとし、この自覚の下、後に続く世代にその真価を継承・発展させてほしいものです。



弁護士
加納 駿亮

CSR委員会でのコメントから

コンプライアンスの徹底はどこの会社でも「のど元過ぎれば熱さを忘れ」がちである。いかに小さな問題であっても常に意識し、それぞれが抱えている問題を全員が共有して緊張感を持続することが大事である。

第三者意見報告書

当意見は、本報告書の記載内容、および同社の環境、人事、資材およびCSRの各担当責任者へのヒアリングに基づいて執筆しています。

同社のCSRへの取り組みは、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス「グリーンファースト ゼロ」の開発・販売や、世界的にも先駆的な顧客との協働による「5本の樹」計画、社外委員を含むCSR委員会の四半期ごとの定期開催など、環境への負荷削減と保全を中心に、社会と自社の持続可能性を統合的に高めるためのマネジメントを適切に進め始めていると言えます。

高く評価すべき点

- CSRマネジメントの基本的な取り組み方針について、顧客と社会の観点から、住宅産業に対して最も関心が高い事項である、省エネをはじめとする環境負荷の削減と、メンテナンスによる資産価値の維持の重要性を、トップマネジメントが率先して認識し、その期待に応えるイニシアティブをとっていること。その財務面でのアウトプットを経年比較できるデータを開示していること。取り組みの積み重ねによって顧客と社会にもたらされた、価値やアウトプットの可視化・定量的把握や発信に、強く期待します。
- 環境負荷削減の推進について、高断熱・高気密に太陽光発電・燃料電池なども組み合わせたネット・ゼロ・エネルギー・ハウス「グリーンファースト ゼロ」が導入2年目で採用比率が6割近くに達しているとともに、廃棄物量を正確に測定・管理するためにICタグを導入するなど、ライフサイクル全般における取り組みが進められていること。
- 生態系・生物多様性の保全について、顧客との協働による「5本の樹」計画を中心とした植栽が累計1100万本を超え、木材調達においてNPO/NGOとの協働により独自のガイドラインを設けて、違法伐採の排除や適正な循環の促進などを定量的に把握したうえで購入していることなど、世界的にも先駆的に取り組みを進めていること。今後は、「5本の樹」計画による生き物を調査し、その効果や影響の把握と発信に、強く期待します。

取り組みの進捗を評価しつつ、さらなる努力を求めたい点

- ガバナンスとマネジメントにおけるCSRの推進について、持続可能な社会の実現のために「4つの価値」と「13の指針」を明示していることを評価するとともに、今後は、その実践の意義やプロセス、中期経営計画における位置付けなどを、定量的な指標とともに簡潔にまとめ直し、国内外のグループ企業の従業員が意義を共有する機会を設けること、また、人権をはじめとする社会的な項目についても重要業績評価指標(KPI)を設定することを、引き続き強く期待します。
- 従業員の働き続けやすさの向上と人的ポートフォリオの拡充について、育児・看護・介護のための休業・短時間勤務制度の利用者が積水ハウス株式会社単体の従業員の4.12%に、障害者雇用率も2.14%(2015年4月10日時点)に達するなど、着実に推進していること、特に、育児休暇・休業を取得する男性が増えたことを高く評価します。今後は、国内のさらなる少子高齢化に対応し得る人的ポートフォリオの拡充のために、介護のための休業・短時間勤務制度の経験者による研修への家族参加の働きかけ、会社・業務以外の事項にも広範に応じる「なんでも相談」の機能強化、65歳までの定年延長に伴う従業員の地域参加の働きかけが進むことを、引き続き期待します。
- 取引先における社会責任への取り組みの向上について、「取引基本契約書」の基本原則に同社と取引先が「社会的責任を果たすことにより、経済・環境・社会の側面における企業活動の本質的な部分を見失わないようにし、また、危機管理、法令遵守、内部統制を確保する体制の構築により企業価値の向上に努めるものとする」と明記し、取引先評価制度にも環境配慮を組み込んでいること、その具体的成果として資材梱包の減量が進んでいることを評価するとともに、今後は、労働・安全衛生や人権など社会的な事項についても継続的な改善や向上を促すために、評価制度の対象となる項目の細分化と把握の精度向上、さらにその積極的な情報開示に期待します。
- 施工にあたる技能者の育成について、訓練校の入校者数が2013年以降着実に増加し、その修了者の5年後(継続)在籍率も9割近くに達していること、またベトナム、中国、タイからの技能実習生も2013年から2年間で計81名に達していることを評価するとともに、今後は、特に外国人実習生の技能向上を継続的に支援する体制の拡充に期待します。

- 社会貢献活動について、障害のある人々によるノベルティ製作など、先駆的な取り組みが進められたことを高く評価するとともに、今後は、「マッチングプログラム」に参加・協力する従業員がさらに増えるよう、管理職層による助成先団体へのモニタリングやボランティアなど、現場で活動を体感する機会の拡充に引き続き強く期待します。



IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]

代表者 川北 秀人

川北秀人
一丸

IIHOE: 「地球上のすべての生命にとって、民主的で調和的な発展のために」を目的に1994年に設立されたNPO。主な活動は市民団体・社会事業家のマネジメント支援だが、大手企業のCSR支援も多く手がける。

<http://blog.canpan.info/iihoe/>  (日本語のみ)

環境に関する分野

社会はさまざまな問題に直面していますが、積水ハウスグループは「住まいは社会の中心であり、住まいを変えることで、これらの社会問題を解決し、より良い社会をつくり出すことができる」と考え、社会問題を解決しながら新しい価値を創造していくCSVとして事業を推進しています。

例えば、都市部における生物多様性は「家の庭から解決できる」と考え、在来樹種を中心にした「5本の樹」計画を2001年から開始し、お客様のご理解を得て年間100万本（2014年度は81万本）、累積で1100万本以上の植樹を行っています。これにより従来よりも数多くの鳥や蝶が庭を訪れていることを専門家による調査でも確認しています。また、2013年4月に販売を開始した「グリーンファースト ゼロ」は、「最新の技術を使って快適に暮らしながらエネルギー収支ゼロ」を実現すると同時に、「大幅にCO₂排出量を削減する住宅」であり、既に当社戸建住宅の約6割を占めています。この「グリーンファースト ゼロ」は、地球温暖化問題やエネルギー問題を解決しながら、これまでより快適に暮らすことができます。

このように積水ハウスの考える環境配慮住宅が普及していくことで生物多様性保全や地球温暖化防止に寄与しています。こうした取り組みに対してはCSR委員会の社外委員の皆様や第三者意見でも高い評価をいただきました。しかし、外部の企業環境取り組み評価では当社の取り組みはまだ十分にお伝えできていない部分もあり、今後はこれらをきっちりとお伝えしていくことの重要性を認識しています。これにより社員も自社の取り組みの意義を再確認することにつながるでしょう。また、セグメント別やグループ会社別では成果にばらつきがあり、今後は、ご指摘のように分かりやすい定量的な指標をさらに精緻化していくことによって、グループ全体で質の高い環境経営をより強力に推進したいと思えます。



執行役員
環境推進部長 兼 温暖化防止研
究所長

石田 建一

社会性に関する分野

創業以来、顧客満足度第一で事業活動を展開してきた当社が、CSR活動を推進する上で大事にしている「共有価値の創造」の考え方、CSVアプローチに対する従業員の認知度は、全体として浸透していると思います。ただ、「グリーンファースト ゼロ」比率などKPI(目標達成指標)で結果を検証すると、事業所間の格差等がまだ見られるのも事実です。

今後も営業部門と本社が一体となって、お客様をはじめとしたさまざまなステークホルダーに共有価値をお届けできるように、また社内全体に伝わるよう取り組みを強化していきたいと思えます。

2014年度は、GRIガイドラインのG4に準拠することを目指し、マテリアル(重要)な側面の特定を行い、これらを具体的な活動レベルに束ね、六つの「CSV戦略」を定めました。CSRの観点で行うべきことは数多くありますが、メリハリをつけて活動していきます。

「企業は人なり」といわれますが、価値が創造できる人材の育成は企業にとって極めて重要度の高いテーマです。「CSV戦略」の一つである「ダイバーシティの推進」はもちろん、被災地復興支援活動の継続などによる新入社員の育成、「教育訓練センター・訓練校」を活用した施工に携わる若い技能者の養成、さらにはサプライチェーン・マネジメントや協力工事店の組織体である「積水ハウス会」との連携を強化するなど、住まいづくりにかかわる「人」への働きかけに注力してまいります。

近年、日本版ステewardシップ・コードやコーポレートガバナンス・コードが注目され始めています。財務資本の提供者に明快に情報を発信し、誠実に対話することも重要な企業の社会的責任です。本報告書ではコンテンツに統合報告パートを盛り込み、当社の環境・社会性に関する活動が企業価値の成長にも結び付いていることを説明しています。本報告書を活用し、株主・投資家の方々との対話を深めながら、情報開示・レポート方法のさらなるブラッシュアップも図ってまいります。



コーポレート・コミュニケーション部
長 兼 IR室長

畔柳(くろやなぎ) 均

あ行 か行 さ行 た行 な行 は行 ま行 や行 ら行

あ行

■ IR

企業が投資家に対して、財務や経営の状況、業績動向などを開示する活動。投資家向け広報ともいわれる。

■ ISO14001

企業などの活動が環境に及ぼす影響を最小限にとどめることを目的に定められた、環境マネジメントシステムに関する国際的な標準規格。

■ ISO26000

2010年11月に発行された社会的責任に関する手引。ISOの他の標準規格と異なり、認証を求めておらず、ガイダンスとして位置付けられている。

■ エコ・ファースト企業

環境省制定の「エコ・ファースト制度」のもと、地球温暖化対策、生態系保全、廃棄物・リサイクル対策などの環境取り組みを業界のトップランナーとして環境大臣に認定された企業。

■ SRI

株主の立場や権利を行使して、経営陣に対し、企業の社会的責任を考慮して行う投資。

■ NGO

Non-Governmental Organizationの略称で、民間人や民間団体のつくる非政府組織。

■ NPO

Non Profit Organizationの略称で、さまざまな社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称。

■ エンゲージメント

「組織(会社)」と「個人(社員・構成員)」が一体となって、双方の成長に貢献し合う関係。

■ 温室効果ガス

二酸化炭素、メタンなど、自然の生態系や人間社会に大きな影響を及ぼし、地球温暖化をもたらしているガス。

か行

■ 環境会計

企業が持続可能な発展と、環境保全への取り組みを推進していくことを目的として、事業活動における環境保全活動のためのコストを定量的に測定する仕組み。

■ 京都議定書

気候変動枠組条約に基づき、1997年、京都で開かれた気候変動枠組条約第3回締約国会議で採択された議定書。

■ グリーン購入法

循環型社会の形成のために、供給・需要の観点から2000年に制定された国等による環境物品等の調達等の推進等に関する法律。

■ コーポレートガバナンス

企業統治と訳される、企業における意思決定の仕組み。企業の不祥事の多発から、組織全体での企業倫理の逸脱などを防ぐために重要である。

■ コンプライアンス

法令遵守と訳されるが、企業が法律や内規などの基本ルールに従って活動し、社会の期待に応えること。

さ行

■ 再生可能エネルギー

太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など、一度利用しても短期間に再生可能で、資源が枯渇しないエネルギー。

■ サ高住

「サービス付き高齢者向け住宅」の略。高齢者の居住の安定を確保することを目的として、バリアフリー構造等を有し、介護・医療と連携して高齢者を支援するサービスを提供する住宅。

■ サステナビリティ

持続可能性(Sustainability)、持続できること。経済的發展をしつつ、環境および社会の両側面において、現在、将来も引き続き貢献する考え方。

■ サプライチェーン・マネジメント

材料調達・製造・流通・販売という生産から消費に至る商品供給の流れを供給の鎖(supplychain)ととらえ、複数の企業間で統合的なシステムを構築すること。

■ 産業廃棄物

自分で利用しなくなったり、第三者に有償で売却できなくなったりした固形・液状の物のうち、事業活動に伴って生じた物(政令で定められた20種類)を指し、排出事業者処理責任がある。

■ GRIガイドライン

オランダに本部を置くNGOであるGRI(Global Reporting Initiative)が発行する、CSRの国際的なガイドライン。企業の経済・社会・環境面のトリプルボトムラインが骨格。

■ CSR

Corporate Social Responsibility の略称。企業が事業活動において利益を追求するだけでなく、あらゆるステークホルダーとの関係性を重視しながら果たす社会的責任。

■ CSR調達

コンプライアンス(法令遵守)や公正性、さらに人権や労働問題への取り組みなど、調達先のCSR活動も考慮に入れた調達のこと。

■ CSV

Creating Shared Valueの略称。企業が事業を営む地域社会の経済条件や社会状況を改善しながら、自らの競争力を高める方針とその実行。ハーバード大学ビジネススクール教授のマイケル・ポーター氏が中心となり提唱している概念。

■ シックハウス症候群

住居内での室内空気汚染に由来する、倦怠感・めまい・頭痛・湿疹・のどの痛み・呼吸器疾患など、さまざまな健康障害の総称。

■ 住生活基本法

2006年に施行された住宅政策の指針となる法律。少子高齢社会を見据え、防災や安心・安全、社会福祉、地球環境など住宅の質向上に目標を大きく転換している。

■ 循環型社会

製品などが廃棄物となることが抑制され、または適正に循環的な利用が行われ、および適正な処分が確保され、天然資源の消費を抑制し、環境負荷が低減される社会。

■ 森林認証

第三者機関が一定の基準などを基に、適切な森林経営や持続可能な森林経営が行われている森林または経営組織などを認証し、森林経営を支援する取り組み。

■ ステークホルダー

企業活動がかかわる顧客(消費者)、従業員、株主、取引先、地域社会、行政機関などに属する個人・集団などの利害関係者。

■ スマートハウス

太陽光発電や蓄電池、燃料電池などのエネルギー機器、家電、住宅機器、電気自動車などを一元管理することで、家庭内のエネルギーを最適制御する住宅。

■ 生物多様性

地球上のさまざまな生き物たちの豊かな個性とつながりのこと。食料をはじめ、私たちの日常の暮らしは、この生物多様性に支えられて成り立っている。

■ セクシュアルハラスメント

相手の意思に反して不快や不安な状態に追い込む性的な言葉や行為。

■ ゼロエミッション

産業活動により排出される廃棄物・副産物すべてを資源として再活用し、社会全体として廃棄物ゼロを目指す考え方。国連大学が1994年に提唱した構想。

た行

■ ダイバーシティ

性別や年齢、民族、出身地、国籍、障がいの有無、言語や文化、性的指向、価値観などの違いを尊重し、生かすことにより、ビジネスの成果に結び付けること。

■ 蓄電池

充電と放電を繰り返すことが可能で、貯蔵した電力を必要に応じて供給することができる電池。「二次電池」や「バッテリー」ともいう。

■ 低炭素社会

温室効果ガスの排出が少ない社会のこと。

■ トリジェネレーション

熱源から生じる熱や電気に加え、そこから発生するCO₂までも有効に活用しようというエネルギー供給システム。

な行

■ 内部統制システム

組織の業務の不正やルール違反を防止し、適正を確保するための管理・監査体制を構築していくシステム。

■ ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)

政府が2020年までの普及を目指している、一次エネルギー消費量が正味(ネット)でおおむねゼロとなる住宅。

■ 燃料電池

水素と酸素の電気化学反応(燃料の酸化)によって生じる化学エネルギーを直接電気エネルギーとして取り出す発電装置。「エネファーム」が統一名称。

は行

■ バイオマス

動植物など、再生可能な生物由来の有機性資源で、化石燃料を除いたもの。化石燃料に代わり、CO₂排出削減に寄与するエネルギー源としても期待されている。

■ パワーハラスメント

職務上の地位や人間関係などの優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える、または職場環境を悪化させる行為。

■ BCP(事業継続計画)

Business Continuity Planningの略称。緊急時の企業存続計画、事業継続計画のことで、災害などリスクが発生した際に、重要業務が中断しないよう戦略的に準備をする計画。

■ ヒートポンプ

少ないエネルギーで空気中などから熱を効率的に集めて、大きな熱エネルギーとして利用する技術。エアコンや給湯器(エコキュート)でも利用されている。

■ フェアウッド

木材供給地で伐採する際に、その地の森林環境や地域社会に配慮した木材や木材製品のこと。

■ HEMS

Home Energy Management Systemの略称。家庭用のエネルギー管理システムのこと。

ま行

■ マテリアルバランス

企業の事業活動において調達から販売後の回収・再資源化までの過程で投入した資源・エネルギーと環境負荷の全体像を示したもの。

■ メンタルヘルス

精神面における健康。心の健康、精神衛生、精神保健と称され、精神的な疲労、ストレス、悩みなどの軽減・緩和とサポートなどの意味でも使われる。

や行

■ ユニバーサルデザイン

年齢、性別、身体的状況、国籍、言語、知識、経験などの違いに関係なく、すべての人が利用しやすい施設・製品・情報の設計(デザイン)。

ら行

■ リスクマネジメント

企業活動に関連するリスクを把握、コントロールし、リスク回避や分散、損害・損失の予防・最小化を目指す取り組み。

編集方針

「サステナビリティレポート2015」はサステナブル社会の実現に向けた積水ハウスグループの取り組みをご理解いただくとともに、取り組みのさらなる向上を目指して社会とコミュニケーションを図ることを目的に発行しています。本報告書の特徴、報告メディアの考え方、報告対象範囲などについて記述します。

本報告は、サステナブル社会の実現に向けた積水ハウスグループの取り組みをご理解いただくとともに、取り組みのさらなる向上を目指して社会とコミュニケーションを図ることを目的に発行しています。

報告事項の特定と編集設計にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン(2012年版)」を参考にしています。また、「GRI(Global Reporting Initiative)サステナビリティ・レポート・ガイドライン 第4版」(G4)による標準開示項目の情報を記載しています。選定した報告事項の開示方法については、社会的責任に関する国際規格であるISO26000を参考にしています。

「サステナビリティレポート2015」に開示している温室効果ガス排出量の信頼性を高めるため、第三者機関による保証を受けています(独立保証報告書は[こちら](#)に掲載しています)。右記のマークは、本報告書に開示している温室効果ガス排出量の信頼性に関して、[サステナビリティ情報審査協会](#)の定める「温室効果ガス報告審査・登録マーク付与基準」を満たしていることを示します。



「サステナビリティレポート2015」の特徴

- 掲載内容については、社会情勢、2014年度報告書に対する社内外2367人のアンケート回答などを勘案し、社外委員3人を含むCSR委員会で決定しました。
- G4の特定標準開示項目における46側面から30の重要な側面に絞り込み、具体的なCSR活動レベルで束ねた六つの「CSV戦略」を開示しています。
- 財務資本の提供者向けに「統合報告パート」のページを設けています。
- 年次報告書として2014年度の取り組み成果を整理し、「CSV戦略」のページに含めて開示しています。目標に対する実績の自己評価も掲載しています。
- 「エコ・ファーストの約束」の進捗状況など、重要項目についてはKPI(成果の主要指標)を開示しています。
- 取り組みに対する客観的な評価として、お客様や社外有識者の方々など、さまざまなセクターのステークホルダーからご意見を頂戴して掲載しています。

報告メディアの考え方

冊子は、特に重要性の高い情報に絞り込み、読みやすくわかりやすく編集しています。WEBサイトは、あらゆるステークホルダーへの説明責任を果たすために、網羅的に情報を開示しています。

また、お客様にとって特に重要性の高い活動に絞り込み、別冊も発行しています。



報告対象範囲

事業所の対象範囲

本報告書における事業所の対象範囲は、積水ハウス株式会社とCSR・環境経営上重要な連結子会社である積和不動産(7社)、積水ハウスリフォーム、積和建设(20社)、および積和ウッド等の18社の計47社とします。

グループ全体のカバー率は従業員数ベースで97.9%です。

事業内容の対象範囲

積水ハウスグループの事業は戸建住宅事業、賃貸住宅事業、リフォーム事業、不動産フィー事業、分譲住宅事業、マンション事業、都市再開発事業、国際事業、その他事業(エクステリア事業等)であり、これらについて報告しています。

■ 対象期間

2014年度(2014年2月1日～2015年1月31日)

※ 2015年度の活動も一部含みます。

■ 発行時期

毎年5月

※ 英語版・中国語版:毎年7月(予定)

■ レポートに関するお問い合わせ

コーポレート・コミュニケーション部 CSR室

TEL. 06-6440-3440

環境推進部

TEL. 06-6440-3374

メールフォーム

<http://www.sekisuihouse.co.jp/mail/> 

弱視、色弱の方にも「サステナビリティレポート2015」をストレス無くご覧いただけるよう、音声読み上げリーダーの操作性に配慮し、また背景色と文字色を選択可能にした「音声読み上げ用テキスト版」を用意いたしました。

■ テキスト版への移動

対応ページでは、通常ページの右肩と画面右端に「テキスト版」へのリンクを設けています。

一度テキスト版に移動すると、「通常版」のリンクをクリックしない限り、テキスト版にとどまったままページを移動します。

■ 音声読み上げツールへの対応

ページの冒頭に「本文に進む」「メニューに進む」のリンクを用意いたしました。

また、メニュー関連はページ後半に移動させてできるだけ短時間で本文が始まるようにいたしました。

「メニューに進む」をクリックすると、メニュー項目にジャンプします。

メニューは、

1. 前後のページ移動
2. 主要なメニューとサブメニューリストへのリンク
3. サイトマップ

の3段階で構成しています。

1. 「前後のページ移動」では、現在表示しているページのひとつ前のページ、次のページに移動します。
2. 「主要なメニューとサブメニューリストへのリンク」では、第一階層(実践報告は第二階層)のメニューを一覧できますので、サイト全体を俯瞰できます。リンクをクリックすると3の該当項目へジャンプします。
3. 「サイトマップ」では「サステナビリティレポート2015」の全ページのタイトルをご覧いただけますので、現在表示しているページから、全てのページに直接移動することができます。2の「主要なメニューとサブメニューリストへのリンク」と組み合わせてご利用ください。

■ 弱視・色弱の方への対応

ページ冒頭の「文字サイズ:小中大」で、文字サイズを変更できます。

さらに背景と文字色について「白地に黒文字」「黒字に黄文字」「クリーム地に黒文字」の3つの切り替えボタンで、背景色と文字色が変更できます。一度色を変更すると、ページを移動してもその配色のままご覧いただけます。

見やすい文字サイズと背景色・文字色の組み合わせでご覧ください。

